

足立区立小中学校 ICT機器活用に関する効果検証

結果報告（要約版）

<目次>

- 調査概要
- 授業準備に関する負担感について
- デジタルとアナログを組み合わせた授業の実施について
- 児童・生徒用タブレット端末を用いた授業の組み立てについて
- ICT機器の操作について
- ICT支援員との連携について
- プログラミング学習に対する苦手意識について
- ICT機器の活用による授業準備等の効率化について
- 教員用タブレット端末の写真機能の使用頻度について
- 教員用タブレット端末のデジタル教科書の活用効果について
- 児童・生徒用タブレット端末の使用頻度について



調査概要

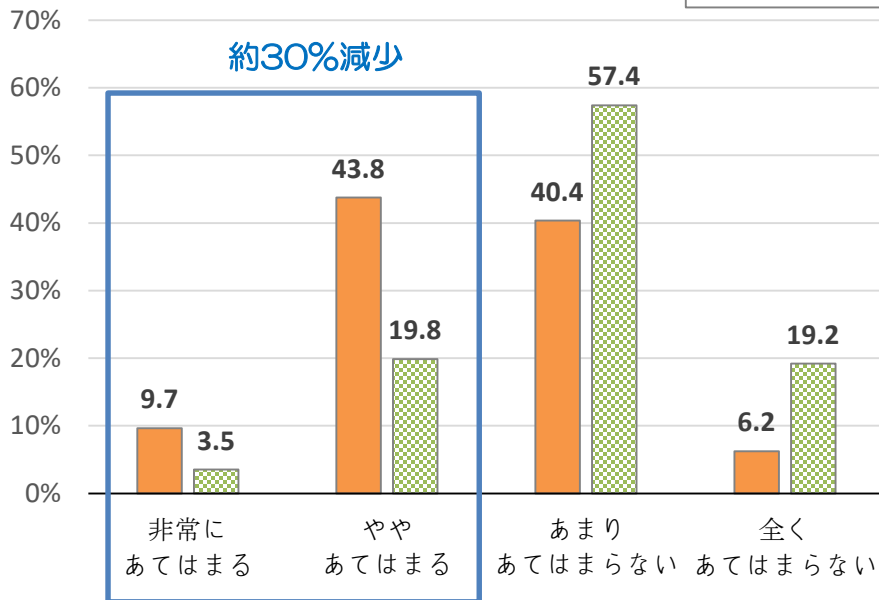
調査目的	「教員向けICT機器活用アンケート調査項目」について事前・事後調査を行い、得られた結果について経年比較を行うことにより、ICT機器の活用効果について継続的に検証を行う。
調査対象	【事前】 令和元年10月3日時点で、 足立区小学校・中学校に勤務する研修を受講した教員全員 【事後】 令和2年2月7日時点で、 足立区小学校・中学校に勤務する1人1台端末を付与されている教員全員
調査方法	Web回答方式
調査期間	【事前】 令和元年8月5日～令和元年10月3日 【事後】 令和2年1月20日～令和2年2月7日
調査項目数	【事前】 小学校7項目、中学校5項目 【事後】 小学校23項目、中学校21項目
有効回答者数	【事前】 2,162名 (夏季操作研修受講者が研修時に回答。端末が付与されていないが受講を希望する教員も回答。) ・ 小学校教員回答 1,449名 ・ 中学校教員回答 713名 【事後】 1,952名 (タブレット端末が付与されている教員。学校の運用によって対象教科が異なる) ・ 小学校教員回答 1,275名 ・ 中学校教員回答 677名

授業準備に関する負担感について

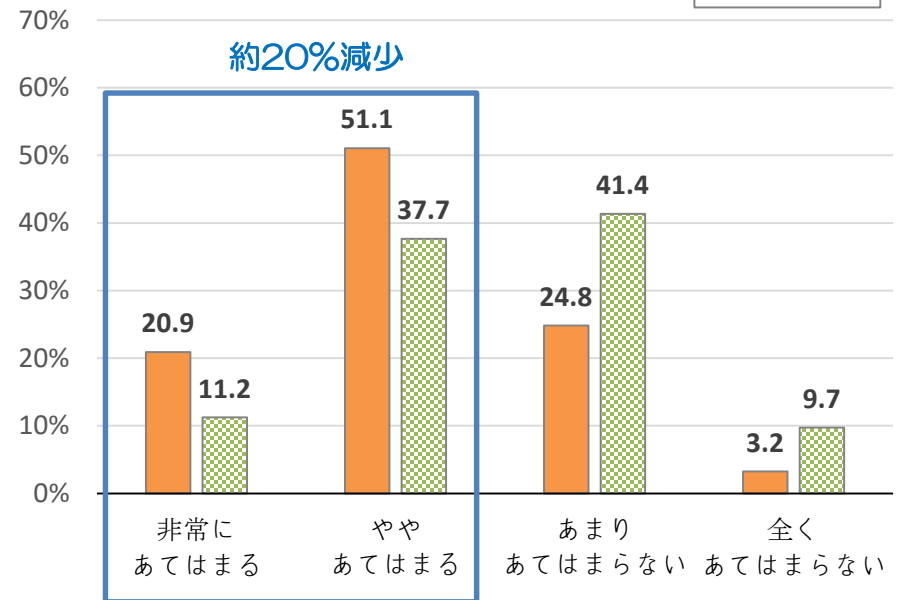
授業準備に関する負担を感じる割合は、**小学校は約20%、中学校は約50%**であった。
事前と比較すると、**小学校は約30%減少し、中学校は約20%減少**している結果となった。

【設問】 授業準備に関する負担が増す。

小学校



中学校



- 小学校・中学校ともに、**授業準備に関する負担感について改善**傾向が見られた。
- **小学校の方が、授業準備に関する負担感**は少ない傾向が見られた。

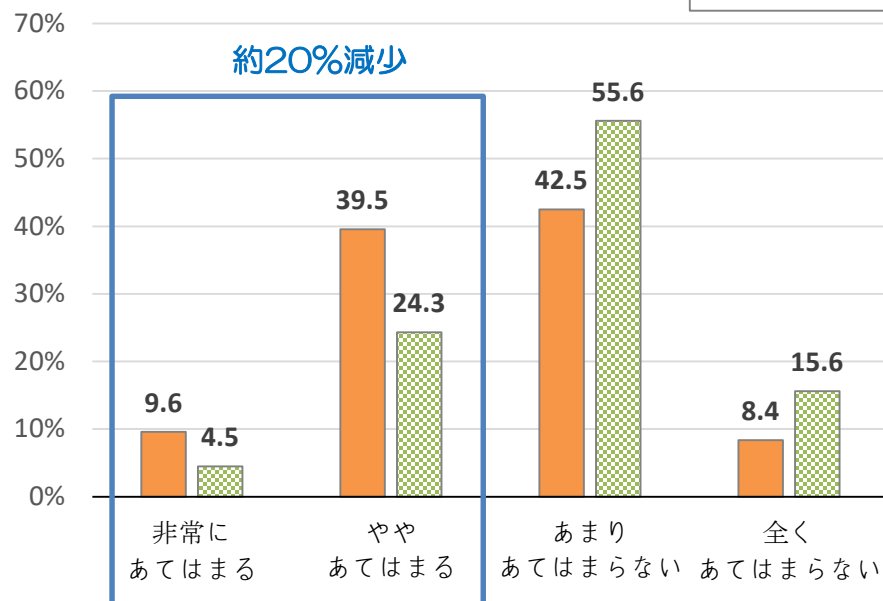
デジタルとアナログを組み合わせた授業の実施について

ICT機器（デジタル）と従来の教具（アナログ）を効果的に組み合わせた授業ができないと感じる割合は、**小学校は約30%、中学校は約35%**であった。

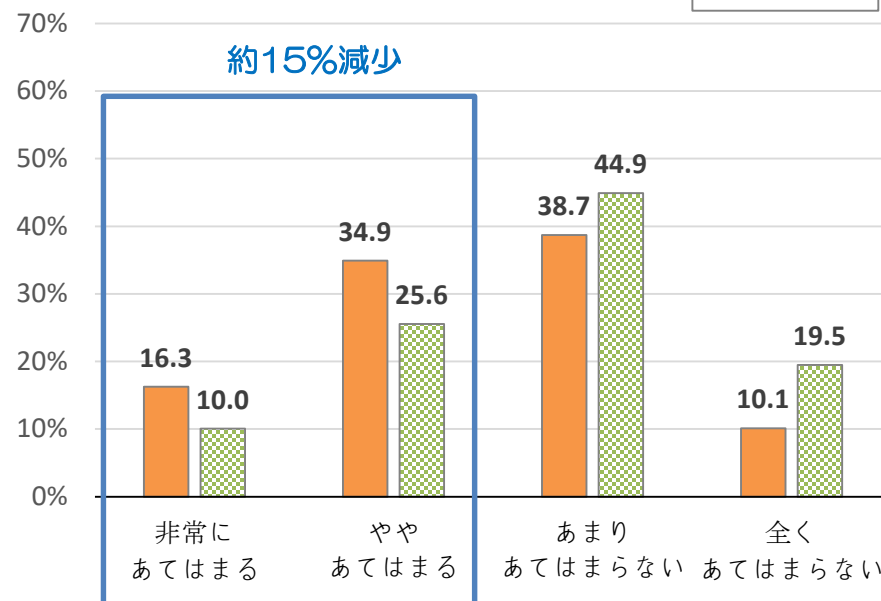
事前と比較すると、**小学校は約20%減少し、中学校は約15%減少**している結果となった。

【設問】 ICT機器（デジタル）と従来の教具（アナログ）を効果的に組み合わせた授業ができない。

小学校



中学校



- 小学校・中学校ともに、**デジタルとアナログを効果的に組み合わせた授業の実施に関する自信について改善傾向**が見られた。

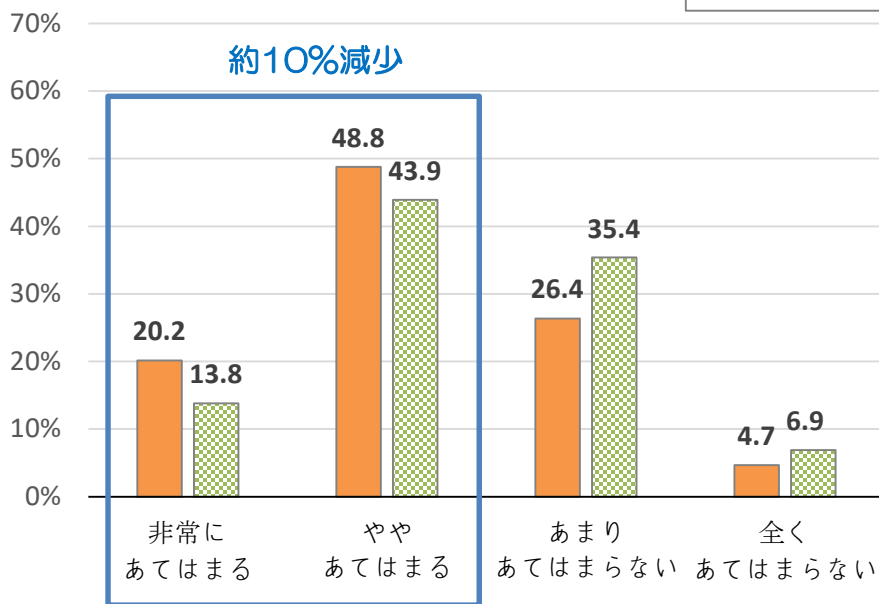
児童・生徒用タブレット端末を用いた授業の組み立てについて

児童・生徒用タブレット端末を用いた授業の組み立てが分からないと感じる割合は、**小学校は約60%、中学校は約55%**であった。

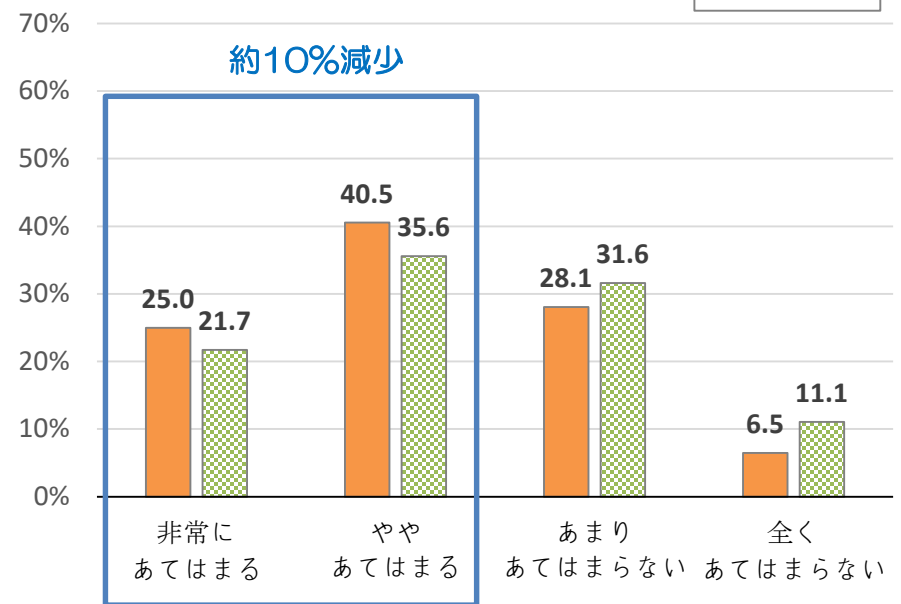
事前と比較すると、**小学校・中学校ともに約10%減少**している結果となった。

【設問】 児童・生徒用タブレット端末を用いた授業の組み立てが分からない。

小学校



中学校



- 小学校・中学校ともに、**児童・生徒用タブレット端末を用いた授業の組み立てに関する自信について改善傾向**が見られた。

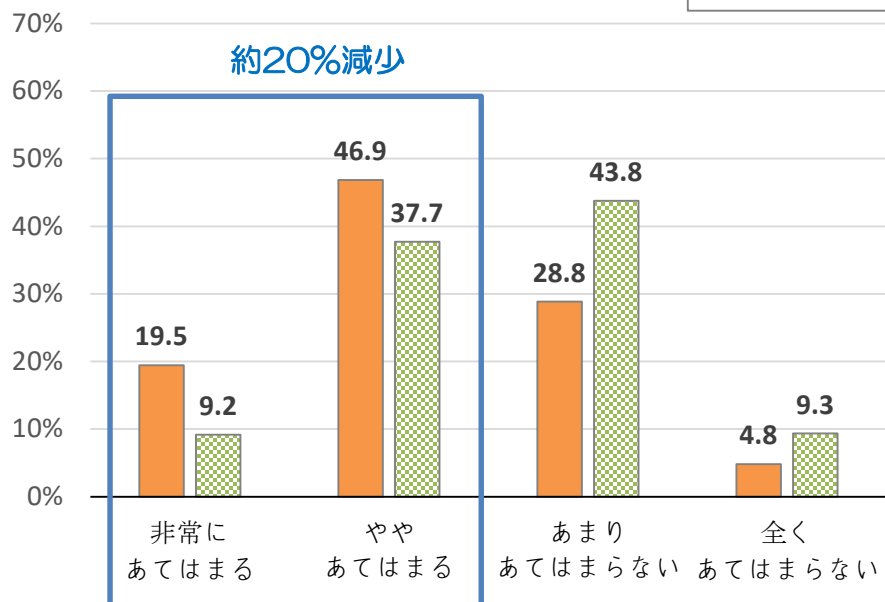
ICT機器の操作について

ICT機器の操作が分からず、操作ミスが起きると感じる割合は、
小学校・中学校ともに約45%であった。

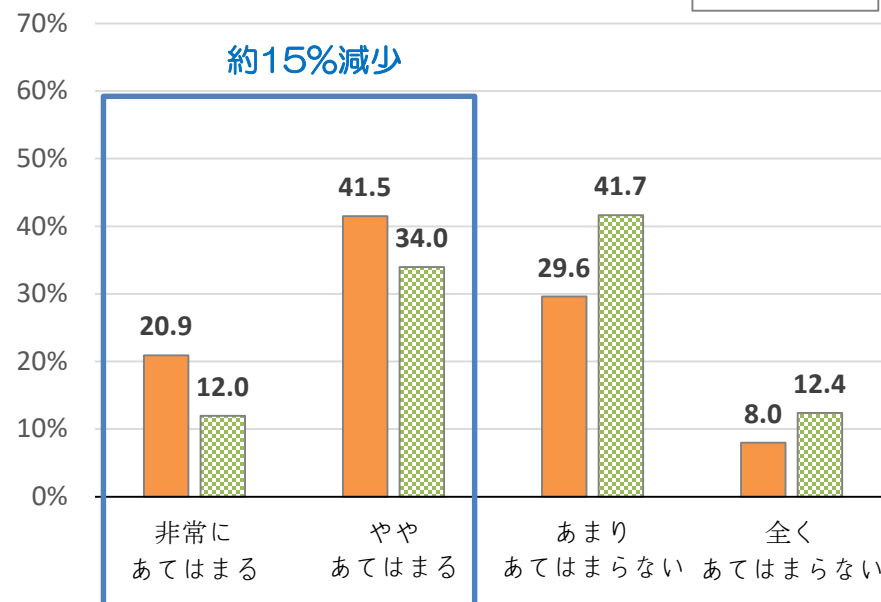
事前と比較すると、**小学校は約20%減少**し、**中学校は約15%減少**している結果となった。

【設問】 ICT機器の操作が分からず、操作ミスが起きる。

小学校



中学校



- 小学校・中学校ともに、ICT機器の操作について改善傾向が見られた。

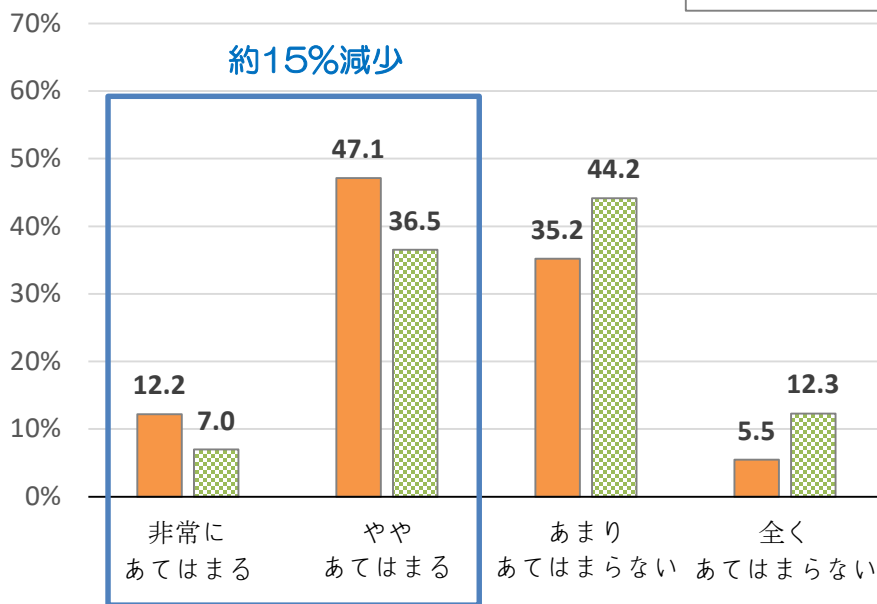
ICT支援員との連携について

ICT支援員との連携に不安がある、また効果的な連携が難しいように思うと感じる割合は、**小学校は約45%、中学校は約35%**であった。

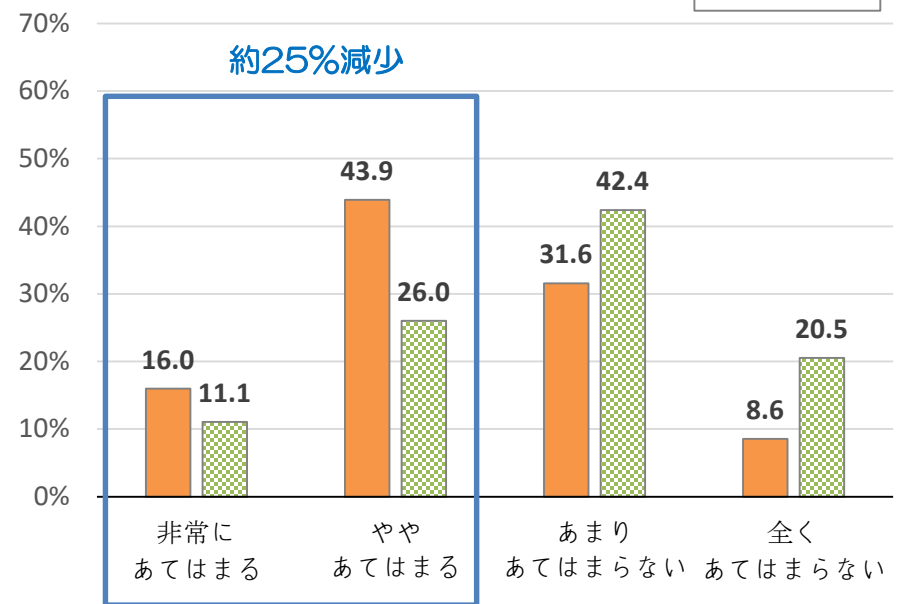
事前と比較すると、**小学校は約15%減少**し、**中学校は約25%減少**している結果となった。

【設問】 ICT支援員との連携に不安がある、または効果的な連携が難しいように思う。

小学校



中学校



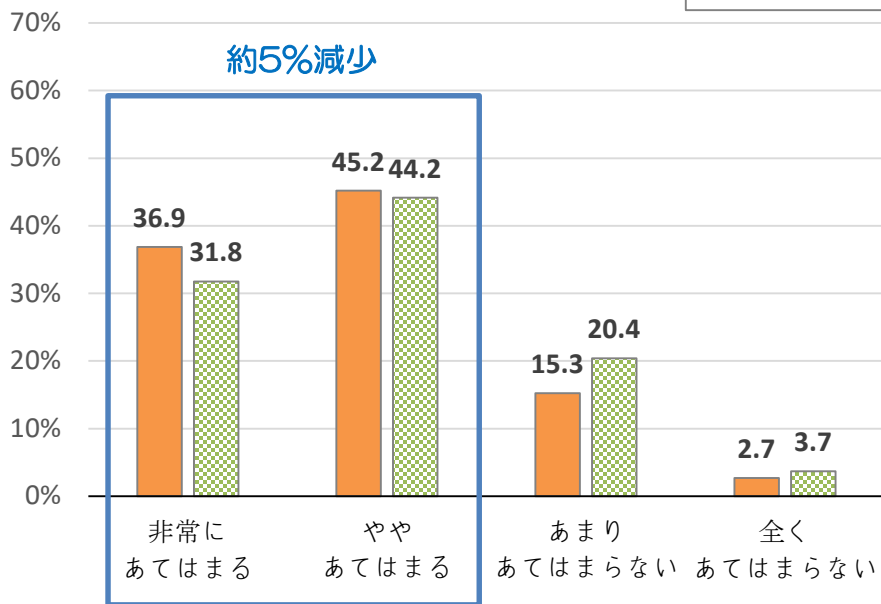
- 小学校・中学校ともに、ICT支援員との連携に対する安心感について改善傾向が見られた。
- 中学校の方が、ICT支援員との連携について安心感を感じている傾向が見られた。

プログラミング学習に対する苦手意識について

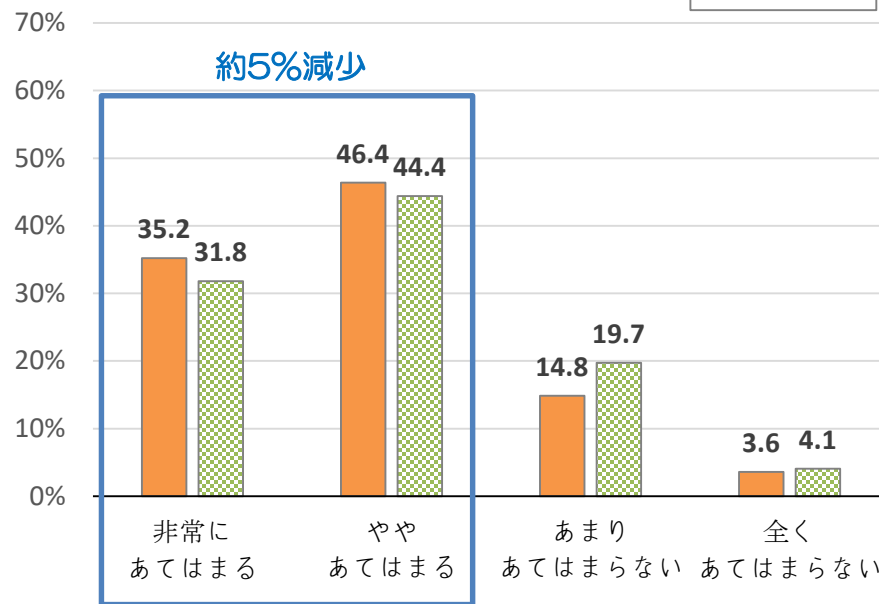
小学校において、プログラミング学習が苦手であると感じる割合は約75%であった。事前と比較すると約5%減少している結果となった。

【設問】 ICT機器を用いた／機器を用いないプログラミング学習が苦手である。

ICT機器あり



機器なし

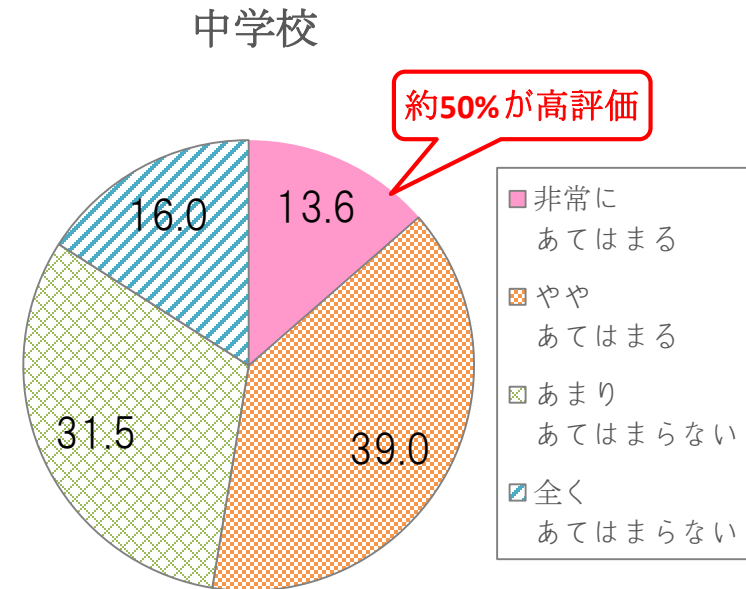
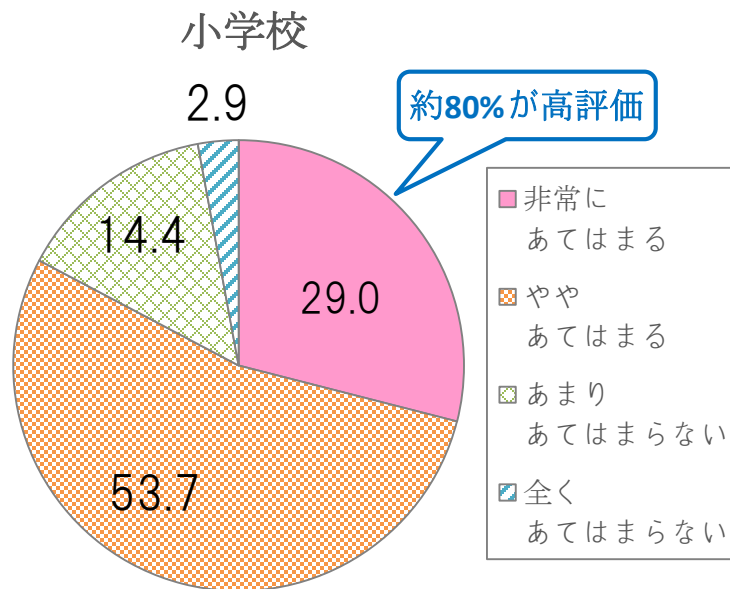


- プログラミング学習に対する苦手意識について、ICT機器を用いる場合も用いない場合も、改善傾向が見られた。
⇒ (しかし、まだ約75%の教員が苦手意識を抱えている状態のため、)
プログラミング学習の苦手意識を克服するための支援が、引き続き必要だと考えられる。

ICT機器の活用による授業準備等の効率化について

ICT機器を活用することで授業準備等において効率化を図ることができたと感じる割合は、**小学校は約80%、中学校は約50%**であった。

【設問】 ICT機器を活用することで、授業準備等において効率化を図ることができた。



- 小学校の方が、ICT機器の活用による授業準備等の効率化に関する効果を感じている傾向が見られた。

- なお、教員用タブレット端末や大型ディスプレイを使用した授業を週1回以上実施した割合は、小学校は約90%、中学校は約60%であった。

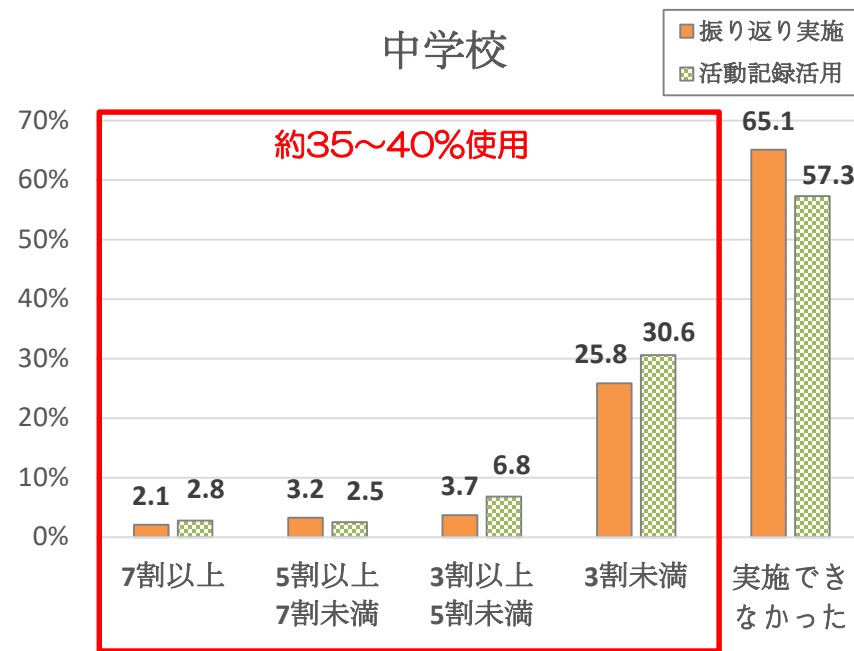
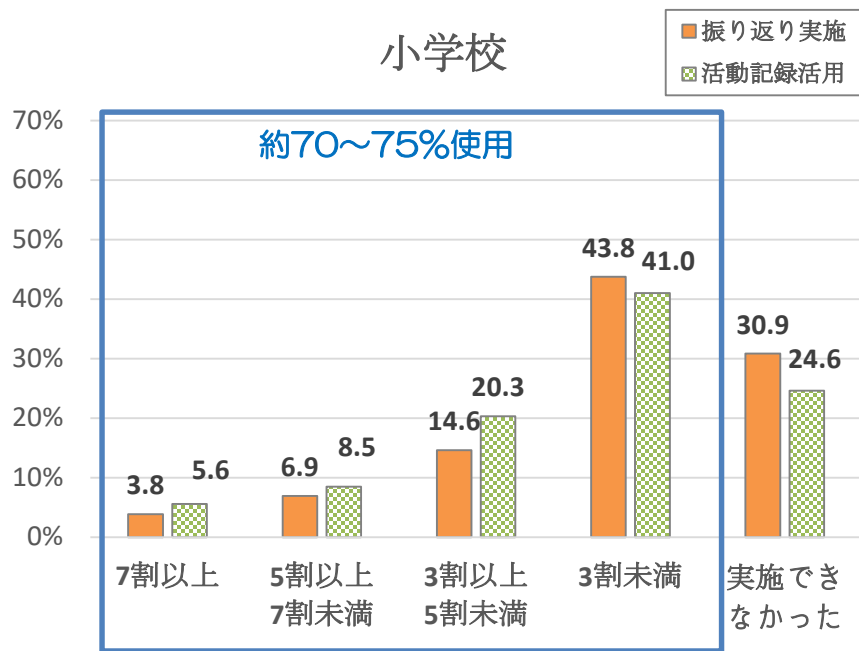
教員用タブレット端末の写真機能の使用頻度について

教員用タブレット端末の写真機能を使用して、

- ・前時の振り返りを実施した割合は、**小学校は約70%、中学校は約35%**である。
- ・子どもの活動記録を授業に活用した割合は、**小学校は約75%、中学校は約40%**である。

【設問】前時の振り返りを実施した頻度／子どもの活動記録を授業に活用した頻度。

(実施したおおよその授業時間数÷総授業時間数)



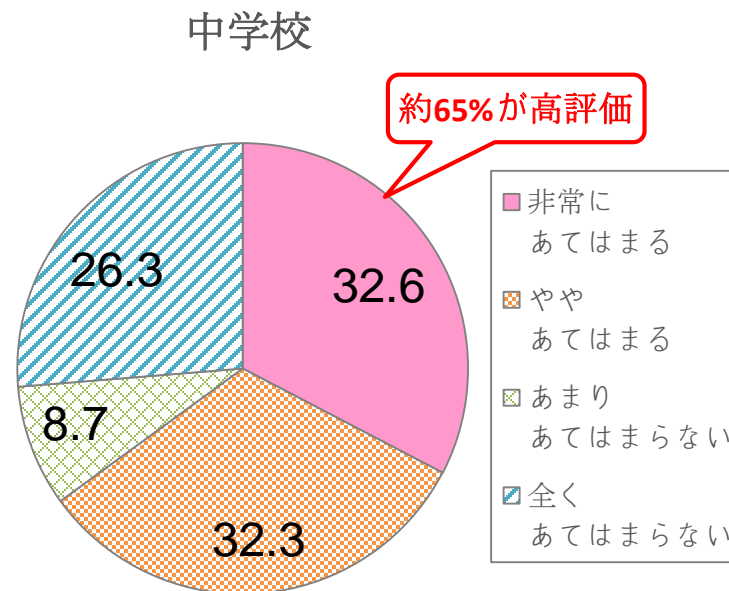
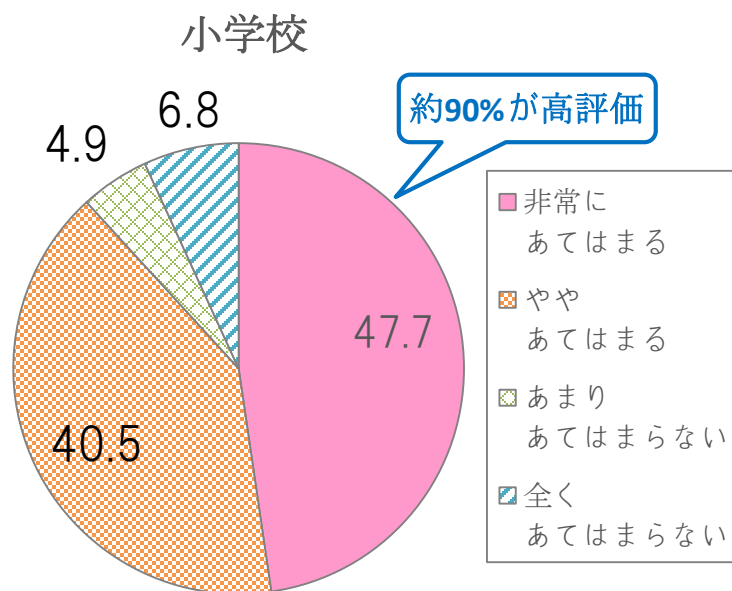
- ・ **中学校の方が、教員用タブレット端末の写真機能の使用頻度が低い**傾向が見られた。
⇒特に中学校において、使用頻度を高めるための支援が必要だと考えられる。

- ・ なお、「前時の振り返りが効率的にできた」「子どもの活動記録を効果的に授業に活用することができた」「子どもが学習内容をより理解することができた」というふうに使効果を実感している割合は、小学校は約40%~60%、中学校は約20%~35%であった。

教員用タブレット端末のデジタル教科書の活用効果について

教員用タブレット端末のデジタル教科書を活用して、視覚的に分かりやすい授業ができたと感じる割合は、**小学校は約90%、中学校は約65%**であった。

【設問】 視覚的に分かりやすい授業ができた。



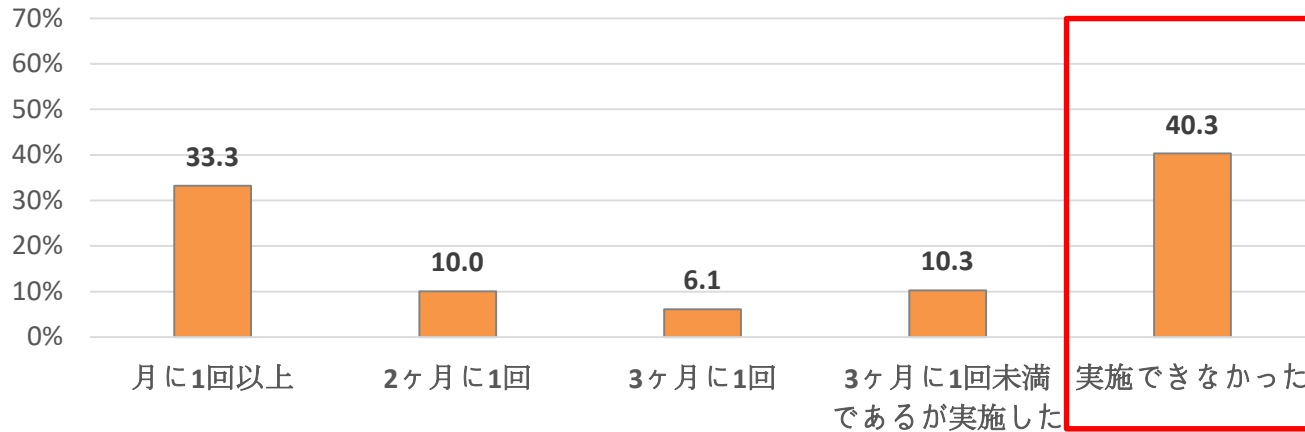
- 小学校の方が、デジタル教科書の活用効果を感じている傾向が見られた。
- 同様に、「子どもが学習内容をより理解することができた」と感じる割合についても、小学校は約90%、中学校は約65%であった。
- なおデジタル教科書を活用した割合は、小学校は約90%、中学校は約60%であった。

児童・生徒用タブレット端末の使用頻度について

児童・生徒用タブレット端末を使用して調査活動を実施した割合は、**小学校は約60%、中学校は約40%**である。

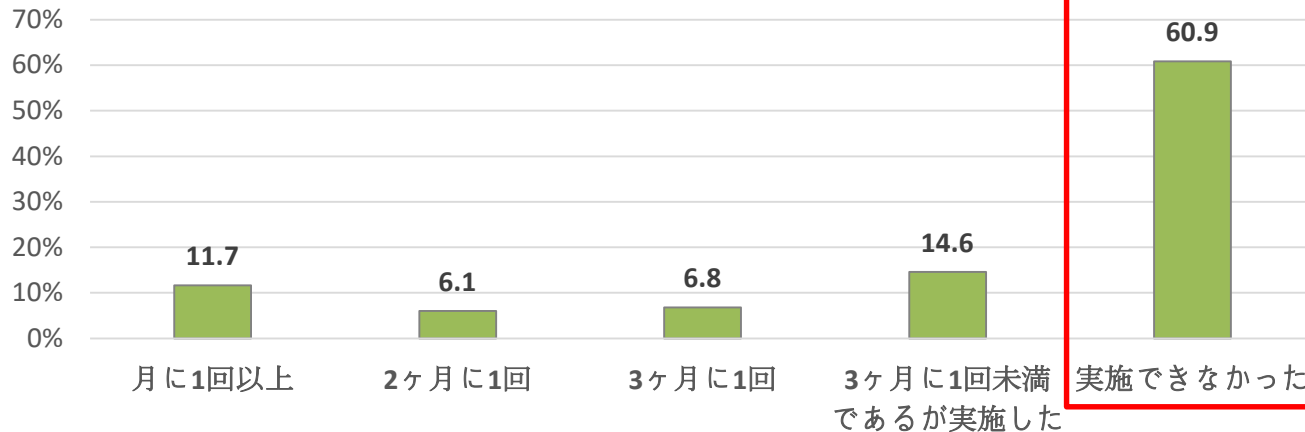
【設問】 調査活動を実施した頻度。

小学校



小学校・中学校ともに、児童・生徒用タブレット端末の使用頻度が低い傾向が見られた。
⇒使用頻度を高めるための支援が必要だと考えられる。

中学校



なお、協働学習を実施した割合（デジタルノートやシナリオカードを使用した割合）は、小学校・中学校ともに約10%であった。